

スポーツ推進委員宿泊研修

8月31日(土)～9月1日(日)

埼玉県の長瀨・寄居方面で、今期の宿泊研修を行いました。

一日目は、長瀨溪谷をゴムボートで7km余り下るラフティング体験を行いました。参加者全員が初体験ということで、ヘルメットをかぶり、救命道具を身に付けたときは、ちよつと不安そうな顔をしていましたが、いざ川下りが始まると、みんな笑顔になっていました。流れの速い瀬では大量の水しぶきを浴びる場所もあり、時には隣のボートとオールを使って水を掛け合い、びしょびしょになりながら童心に帰って楽しんでいました。

二日目は蒸し暑い日でしたが、寄居町の鐘撞堂山(かねつきどうやま)へのハイキングを行いました。寄居駅を出発し、標高330mの山頂を目指して登っていきます。途中、階段もあるなど、歩きがいのある道で、みんなちよつとばて気味でした。山頂からは関東平野の眺めが素晴らしく、お昼を食べながら一息つき。帰路は、円良田湖(つぶらたこ)に出て、日帰り温泉に寄って汗を流しました。



初めてのラフティング体験

初めてのスポーツ体験に定番のハイキングと充実した二日間を過ごすことができました。この経験を今後の活動に生かしていきます。

第72回区民体育大会総合開会式

9月8日(日)



千葉県に甚大な被害をもたらせた台風15号が接近しつつある9月8日に区立小豆沢体育館で板橋区民体育大会総合開会式が開催されました。板橋区吹奏楽団の演奏で表彰者・選手団の入場行進が行われ、例年通り優勝杯返還、選手宣誓、区スポーツ功労賞、体育協会表彰などが実施されました。

関東スポーツ推進委員研究大会

6月7日(金) 8日(土)

今年の研究大会は大宮ソニックシティにて埼玉大会が開催されました。初日は東洋大学陸上競技部の酒井俊幸さんの基調講演でした。第86回箱根駅伝では最年少監督で優勝し、11年間3位以上という成績を収めています。テーマ「その1秒をけずりだせ」は、練習方法やチームの信頼関係の重要性が説明されました。2日目は地域スポーツの拡大をテーマに、埼玉県北葛飾郡と南埼玉郡地域で始まった「ニュースポーツ」「さいかつぼーる」の誕生秘話やルール、そして地域で開発するためのノウハウを学びました。板橋区からもニュースポーツを発信したいものです。

第5回 青少年委員との交流会

6月15日(土)

毎年恒例の青少年委員との交流会が、区立上板橋第四小学校の体育館で開催されました。今回もニュースポーツを体験しながら盛り上がるというところで、両委員混成の8チームに分かれ、「ラダーゲッター」と「キンボール」で競いました。ラダーゲッターは得点の取り方、キンボールは運動量はもちろん一瞬の判断力も必要となります。



ラダーゲッター

キンボール

外は一日中悪天候だったにも関わらず、体育館の中は両委員の熱気に包まれていましたが、競技が終わればお互いの奮闘をたたえる和やかな雰囲気の中、来年度の再会を期して閉会しました。

第7回板橋区ポッチャ交流会

8月8日(木)

今年には区立上板橋体育館で開催されました。区内の福祉園から11チームが参加し、6コートに分かれて3試合ずつ行い、勝利目指して力を合わせて戦いました。ボランティアの参加もあり、各チームは福祉園とボランティアと一緒にプレーしました。開会式ではチーム名の発表があり、始球式、ふるさといたばし体操を行いました。各試合、制限時、

第四ブロック広域地区別研修会

10月5日(土)



事例発表する宮浦総務部長(中央)

なかのZEROホールにおいて主管である中野区をはじめ5区から84名が参加し「安全で安心できるスポーツ参加を目指して」のテーマで開催されました。最初に「スポーツ現場における傷病予防の考え方と安全管理」について帝京平成大学教授の砂川氏の講演があり、続いて各区の実施している事業についての事例発表があり、板橋区からは宮浦総務部長が区民ドッジボール大会とハイキング事業について説明しました。各区の取り組みや傷病予防・安全管理について学ぶ事ができ、リスクマネジメント(危機管理)について講師から適切なアドバイスも頂き、とても有意義な研修会となりました。

障がい者スポーツ大会

9月28日(土)

間20分で目標となるジャックボールをめがけて投球し、選手の皆さんの一投に、応援も熱く盛り上りました。表彰式では手作りのメダルが授与され、交流会を終了しました。

昨年とは打って変わった秋空の下、千人を超す参加者を集め、区立小豆沢公園野球場で開催されました。開会式に続いて行われた「ふるさといたばし体操」では、参加者や来賓、ボランティアなど大勢の方々と一緒に体操している姿は圧巻でした。



大玉転がし

係に分かれ、ボランティアの方々と一緒に運営に携わりました。競技はパン食い競争など全部で九種目行われ、参加者のみなさんは一生懸命、楽しそうに競技を行っていました。そして、最後の種目「大玉転がし」では、なんと紅白が「一勝一敗一分」であったことから、その白熱さが伝わるでしょう。この大会が、東京2020パラリンピック競技大会の盛り上がりにつながることを願っています。

第44回板橋区・高島平ロードレース大会

10月20日(日)



走路員として従事するスポーツ推進委員

湿度はやや高めでしたが、日差しは弱く、まずまずのコンディションの下で大会が開催されました。20km走を皮切りに5km走、10km走とレースは行われました。大会の魅力は社会人や大学の名だたる選手が出場し、一流ランナーと市民ランナーが競い合うことができることです。スポーツ推進委員は受付、走路員、表彰に従事しました。地域の方の熱い声援もあり大会は無事に終了しました。



プリムラの種目の中で幅広い年代層に人気があるのが卓球です。一時は中学の卓球部が土曜日にマシンを使って練習し、シングル、ダブルスで技術向上を目指していました。上は80歳代までいますので、ほかでは見られない光景です。これは、まさにプリムラが目指すところの異世代間交流を実現しています。

一般的に日本のスポーツ活動は中学生、高校生、大学生、社会人、ママさん、高齢者といった年代別に行われていることが多いのですが、プリムラではフットサルなど一部の安全面を考慮すべきコンタクト競技除き、ほとんどの種目で小学生以上であれば年齢上限を設けずに行っています。

また、競技以外の各サークルが行う懇親会やクリスマスカップなどは全世代が協力して開催しています。

日常生活では世代間交流が希薄化しがちですが、プリムラはスポーツ等の活動を通じ交流の活性化に一役買えればと思います。

NPO法人志村スポーツクラブ・プリムラ 理事長 浅見宗弘